

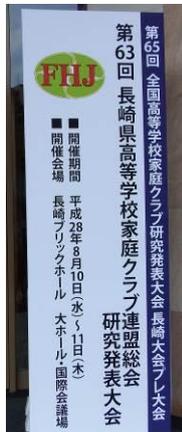
第63回長崎県高等学校家庭クラブ連盟 総会・研究発表大会
 第65回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 プレ大会

期日 平成28年8月10日(水)8月11日(木)
 会場 長崎ブリックホール

大会アラカルト



▲大会会場



▲オープニング



▲県内生徒作品展示



▲特別企画



▲大会準備 リハーサル風景



▲大会弁当



▲生徒交流会 長崎スタンプ



▲平和の折り鶴

～平和を祈る長崎で 鳴らそう未来へ 希望の鐘を～

大会あいさつ

「おもてなしの心で」

長崎県高等学校家庭クラブ連盟成人会長
長崎県立佐世保商業高等学校長

中園 順喜

今年の長崎県高等学校家庭クラブ連盟総会・研究発表大会は二つの大きな意味を持っています。

一つは、この大会での最優秀校が、平成30年に開催される全国大会に出場する権利を得ることです。本日発表される7校の皆さんには、日頃の研究や活動の成果を十分に伝える発表となることを期待しています。

もう一つは、来年度実施される第65回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会長崎大会のプレ大会であるということです。開会式、総会、研究発表などを運営する皆さんは、今日のうちに様々な課題を洗い出し、その解決のためにはどのようにしたら良いのかを考えてください。

この二つの共通点は「おもてなしの心」です。日頃の研究活動は、家族や地域の方々より豊かな生活を送ることについて、研究発表大会の運営においては、長崎を訪れてくれた全国の仲間たちが「もう一度長崎にきたい」と感じる大会運営について、長崎らしいおもてなしとは何かを考え、実行してください。

最後に、本大会開催に当たり多大なご支援とご協力を賜りました全ての皆様に心から感謝申し上げますとともに、家庭クラブ員の皆さんが、本大会をとおして大きく成長してくれることを願っています。

「魅せつけようで！長崎魂」

長崎県高等学校家庭クラブ連盟生徒会長
長崎県立佐世保商業高等学校

菊次 理佳子

第63回県総会・研究発表大会が開催されることを、大変嬉しく思います。今年の大会は、来年の全国大会を見据え、第65回全国研究発表大会のプレ大会としても、重要な位置付になっています。大会の準備を通して、私は生徒実行委員会に携わり、他校のクラブ員との交流で、大会に対する熱意、情熱を感じました。今日は、その情熱を長崎のみなさんと共有する場であると思います。

また、実行委員会でたくさんの意見の中から、合言葉も決定しました。「魅せつけようで！長崎魂」です。

昨年から、県の大会や全国大会を通して私が感じたことは、家庭クラブの組織は、各学校会員1人1人が支えてこそ、大きな力を発揮できる組織だ、ということです。その意味からも、今回の大会の運営をクラブ員皆さんが、自分たちで支えるという意識を強く持って、大会に臨みましょう。

今年は、7校の学校の研究発表を聞くことができます。この発表で、自分の知識を広げて、将来に役立つ会になりますよう願っています。

最後になりますが、今大会の開催にあたり、ご協力いただいた全ての皆様に、心から感謝申し上げます。

「生きる力」を育む家庭クラブ活動

第65回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会
実行委員長
長崎県立諫早農業高等学校長

林 秀樹

平成29年度第65回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会を長崎で開催できますことは、本県大会関係者一同にとりましてこの上ない喜びであります。

「平和を祈る長崎で 鳴らそう未来へ 希望の鐘を」を大会スローガンに掲げ、異国情緒あふれるここ長崎で、全国のクラブ員が研修と交流を深め、未来への希望の鐘を繋ぐ機会にしたいと期待しております。

本日のプレ大会は、来年度の全国大会へ向けて長崎県のクラブ員が力強い一歩を踏み出す最高の機会であります。本日の大会運営を基盤に、全国大会を成功に導いていただきたいと思えます。

さて、高等学校学習指導要領においては、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力のバランスのとれた「生きる力」を育むことが目標とされています。

また、我が国においては、少子高齢化が世界に類を見ない速さで進行するとともに社会構造や生活様式等、生徒を取り巻く環境は大きく変わり、併せて社会経済のグローバル化が急速に進展しています。

この変化の激しい社会において、自立して生きるために必要な基盤を確実に育むことが重要であり、家庭クラブ活動こそが「生きる力」そのものなのです。そのような意味で、県内7校の取り組みを発表する本大会の意義は大きく、クラブ員の研究実践活動が今後益々充実していくことを祈念いたします。

結びになりますが、本大会開催に当たり、多大なご支援とご協力を賜りました皆様方に心から感謝申し上げます。

長崎のクラブ員の知恵と力を結集しよう

第65回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会
生徒委員長
長崎県立諫早農業高等学校

小淵 由和

全国高等学校家庭クラブ全国大会が、いよいよ1年後に長崎県で開催されることになりました。この大会に向けて、これまでに3回の生徒実行委員会を開催し、準備を進めて参りました。

大会スローガンは「平和を祈る長崎で 鳴らそう未来へ 希望の鐘を」。私たちには、被爆地長崎に生まれた高校生だからこそ伝えられることがあります。大会を通して、すべての人々が幸せに暮らせる平和な社会の実現を全国へと発信しましょう。

長崎は、異国情緒あふれる街並みや伝統文化を持ち、自然の美しいっばいの素敵な県です。私は、全国大会を、全国の皆さんに長崎の良さを伝えるだけでなく、私たち自身も長崎についてもっと深く知り、ふるさと長崎の魅力を再発見できる機会にしたいと考えています。大会に関わるクラブ員一人一人が「長崎らしさ」について考え、工夫を重ね、長崎らしいおもてなしで全国の皆さんに喜んでいただきたいです。

さて、本日のプレ大会は、長崎大会の準備や練習を兼ねて行われます。7校の皆さんの研究発表は、学校生活の中の身近な課題について深く掘り下げた興味深いテーマで、発表を聴かせていただくのがとても楽しみです。また、総会では先日行われた福島大会の報告も予定しています。本日の大会が、「全国大会を成功させる」という同じ目標に向かって長崎県のクラブ員の知恵と力を結集し、クラブ員同士の絆を深める機会となることを祈念いたします。

最後になりましたが、大会の開催にあたり御指導・御協力いただきました先生方をはじめ、すべての皆様に心から感謝申し上げます。

大会 第1日目



▲代議員会

8月10日(水)

大会第1日目

- 全体打ち合わせ
 専門部打ち合わせ
 リハーサル(大ホール)
 1. 開会式 2. 総会
 3. 研究発表 4. オープニング
 5. 講評 6. 審査結果
 7. 研究発表者表彰 8. 閉会式
 リハーサル(国際会議場)
 1. 代議員会

代議員会
 生徒交流会(集会型)



▲生徒交流会(集会型)



▲生徒交流会(体験型)

大会 第2日目

8月11日(木)

大会第2日目

- 開会式
 研究発表
 「家庭クラブ活動」
 総会
 表彰式
 閉会式



▲受付



▲研究発表



▲開会式



▲審査結果発表



表彰



▲総会

研究発表の内容と評価

長崎県教育庁高校教育課 係長
川口 由美子 先生



今年度の発表は、環境問題や食生活に関する研究、また、優しさを感じさせる交流活動など、高校生らしい心温まる内容が多かった。研究内容については、学校や地域の課題に目を向け、日々の生活を少しでもよりよくしたいという思いが伝わってきた。また、その研究内容に向けて、すべての学校で、一生懸命に取り組んでいることが伺えた。

今回の発表を通して、次のような課題が出された。

①題目設定の理由を明確にすること

研究の方向性がぶれないようにするためには、題目設定の理由を明確にすることが大切である。研究を熱心にするあまり、多くのことに手を出しすぎてしまうことで、研究の方向性を見失うことがある。また、「中間評価」を実施することにより、研究内容の修正や取り組みの方向性を確認することができる。高い評価を得た発表は、研究のプロセスがしっかりしていた。

②研究の成果を伝えること

学校家庭クラブ活動とは、「学校や地域の生活の中から課題を見出し、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動」である。すばらしい活動報告のみで終わるのではなく、そこから一步踏み込んで、今の活動の課題見つけ、解決し、どう良くなったかを発表することにもチャレンジしてほしい。その1つの方法として、研究前のアンケートと研究後のアンケートを比較し、研究の成果を伝える方法がある。

③写真を用いる場合は肖像権に注意すること

全国大会では、写真、新聞等の引用に1つ1つの許可が必要となる。個人情報保護の立場から、必ず確認していただきたい。

④発表の仕方の工夫をすること

原稿を自分のものにして発表は、聴衆者の理解を得やすく伝わりやすい。また、字の色や背景、アニメーション設定等をどのようにすれば聴衆者をひきつけ、見やすいプレゼンテーションになるかを考えてスライドを作成して欲しい。せっかくのすばらしい取組がうまく表現できず、残念な結果になることがある。

以上、審査会で出された意見をまとめた。これからの研究活動の参考にして欲しい。

これからの社会は、今ある職業の一部がなくなり、逆に新しい職業が出来ると言われている。また、この20年の間に今ある仕事の半分が自動化されるだろうとも言われている。誰も予測できない大きな変化が起こる社会の中で過ごしていくためには、しっかりと自分の頭で考えて行動する必要がある。

これからも、家庭科の学習で習得した知識と技術を、学校生活や地域の生活の場に活かし、課題解決能力と実践の態度を育成して欲しい。そして、「今の自分にできること」を考えて、今の生活のレベルが少しでも上がるような取り組みを期待している。

研究発表 学校家庭クラブ活動の部



身近な薬草を暮らしの中へ

(島原地区)

長崎県立小浜高等学校

薬草にゆかりある島原半島。その土地に合った植物を生活の中に取り入れる工夫ができないかと研究を始めた。薬草のもつ独特の苦さを解消し、程よいにおいを保つにはどうすればよいか、試行錯誤を繰り返しながら、食やハウスキーピングできるもの考えた。限られた時期での採集や、必要量の確保など困難なことが多くあったが、お菓子、サシェ、バスソルト、抗菌・消臭スプレーなどを作って校内や保護者の方々に、そして地域へと発信していった。染色や石鹸作り、リラックス効果を生むものなど、薬草の持つ可能性はまだまだまだ大きい。さらに、家庭や地域への発信し、私たちがいただいている自然の恵みのすばらしさを普及していきたい。

インタビュー

中村 美輝



- ①緊張しましたが、時間内に言えたのでホッとしています。
- ②今まで薬草について研究してこられた先輩方から聞いたように、薬草は採れる時期が限られているので採取するのが難しかったです。においがきつくどうしたらいいのかわからず大変でした。しかし、長崎大学山田准教授にアドバイスをもらえたのでよかったです。
- ③学校内普及として「サシェ」を作り全校生徒に使用、協力後に好感触を得られたのがよかったです。
- ④家庭クラブの活動を知ってもらえた事がとても嬉しかったです。
- ⑤まだまだ薬草は嫌われる傾向にあるので、もっと地域に広げていけるような活動を進めていきたいと思っています。
- ⑥うまく伝えられたか心配でしたが、受賞することができて、安心と嬉しさでいっぱいです。
- ⑦これからもっと薬草についての研究を進め、いろんな地域に広めていきたいと思っています。



海陽版おもてなし

～Let's enjoy the 10th anniversary ceremony～

(五島地区)

長崎県立五島海陽高等学校

クラブ員
奨励賞

創立10周年を迎えるにあたり、家庭科の学びを生かしたおもてなしを実施したいと考え取り組んだ。自分たちで栽培した藍を活用した草木染めのハンカチや奈留島の郷土菓子であるふくれ餅の製作を行った。また、五島の特産品を活かしたオリジナルメニューを考え、地域振興系列と共同して記念弁当を製作するなど、様々な形でのおもてなしを喜んでいただくことができた。さらに、この成果をボランティア活動にも繋げ、たたき染めによる高齢者施設での交流会やおやつサービス、卒業生へのメッセージカード作成など、学校外部への取り組みも実施した。今後は、相手への気配り・心配り、感謝する心を忘れずに、さらに活動の場を広げていきたい。特別な場面だけでなく、日頃からおもてなしの心を持ち、「喜んでほしい」という気持ちを形にしていきたい。

インタビュー

太田 早織



- ①発表練習してきた事を生かせたのでよかったです。
- ②人にあげるという事を意識して、どういふものをもらって喜んでもらえるのかを考えるのが難しかったです。
- ③私達で作ったもので、「おいしい」「きれいだね」「使っているよ」と言ってもらえた時が一番嬉しかったです。
- ④周りを見て行動するとき思いやりの心ももてるようになりました。
- ⑤今後は、今まで以上に人を喜ばせられるような活動していきたいと思っています。
- ⑥練習ではあまり上手くありませんでしたので、受賞できるとは思っていませんでした。とてもびっくりしています。そして、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。



みんなで止めよう！地球温暖化

～みんなの中の1人として～

(長崎地区)

長崎県立長崎明誠高等学校

優秀賞

わたしたち一人ひとりが、「みんなで止めよう！地球温暖化」のみんなの中の1人として、エコ活動に取り組んでいます。個人では長期休業中を中心に、「節電」や「節水」だけでなく、「エコキャンドル作り」「エコクッキング」「エコ大掃除」にも取り組みました。また、なかなか取り組みづらい衣生活分野でのエコ活動には、学校家庭クラブとして、ユニクロの「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加し、着なくなった子ども服の回収を行い、世界中の難民の子ども達に届ける活動に協力しています。子ども服の回収2年目には、地域の児童館と乳幼児ふれあい事業に参加して下さっている乳幼児親子にも協力していただきました。今後もこれらの活動を続け、さらにエコ活動の輪を広げていきたいと思っています。

インタビュー

山口 莉奈



- ①緊張したけど、達成感があり、研究をして良かったと思います。
- ②特に「服のチカラプロジェクト」の1年目は、全校生徒の皆さんが、言葉の意味を知らず、着なくなった服を集めることに苦労しました。
- ③服のチカラプロジェクトの2年目には、幼稚園などに着なくなった服の回収に行ったとき、みんな協力して服を沢山集めることができました。その後、難民の子ども達に送ることができ達成感を感じました。
- ④1年生の時、あまり家庭クラブ活動は活発ではなかったけど、2年生の頃から初めて家庭クラブ委員以外の人も協力してくれるようになり、それが、とても嬉しかったです。
- ⑤今後は、学校生活の中で、みんなが取り組めるエコ活動を考えてやっていきたいと思っています。



西高をきれいに！！

～ゴミの分別から環境問題を考える～

(佐世保地区)

長崎県立佐世保西高等学校

優秀賞

本校では、校内で出されるゴミの現状に関心を持つため、全生徒が、ゴミステーションの分別作業に割り当てている。しかし、教室ではゴミの分別ができていない、ゴミステーションでのゴミの出し方も基本的なマナーが守られていないところがあったので、授業の中で問題点と改善策を考えた。意見の中には「ゴミステーションが西高の見た目を悪くしている」との指摘もあった。そこで、佐世保清掃の方にゴミの分別についてお話を伺った。頂いたアドバイスをもとに、ゴミの分別表示と一言ポスター、ゴミ分別表を作り、不燃ごみコーナーの写真を廊下に掲示し意識の向上を呼びかけ、可燃ごみと不燃ごみのコーナーをできるだけ整理した。今後は、きれいにしたゴミステーションを保つためにどうしたらいいか工夫をし、学校がきれいになるよう活動を続けていきたい。

インタビュー

山下 葵



- ①無事発表が終わり、安心しました。
- ②「西高をきれいに！！～ゴミの分別から環境問題を考える～」という目標だったのですが、まずゴミステーションのゴミが雑然としていたので、ゴミをどのように片付けていいかわからず苦労しました。そして、掃除も大変でした。
- ③掃除を終えたゴミステーションがスッキリしたときに一番充実感を得ることができました。
- ④ゴミの分別や環境問題への関心が高まりました。ゴミの分別の仕方を知りませんでした。研究に関わることによって解るようになりました。
- ⑤今ゴミステーションがきれいな状態にあるので、これからも頑張って今の状態を継続していきたいと思っています。



平戸市の植物や農産物を 使った郷土料理

(北松地区)

長崎県立北松農業高等学校

私たちの学校のある平戸市では、毎年、食まつりが開催されます。そこで知り合った方から、学校に郷土料理の干飯とレシピと手紙が送られてきました。これをきっかけに、平戸市の郷土料理を研究することになりました。

まず、事前アンケートを地元のたびら春まつりで実施し、10歳代では60%以上、20歳以上でも40%が、平戸市の郷土料理を知らない・あるいは意識していないことがわかりました。そこで、地域のお宅を訪問して、郷土料理を調査し、それを伝承していくことにしました。

途中、郷土料理の材料であるさつまいもと大根を地域の方々の協力を得て、自分たちで栽培し、加工しました。

1年後、郷土料理のレシピ集が完成し、自分たちで作った干し大根と一緒に、校内や地域のたびら春まつり・学校給食共同調理場で普及することができました。

インタビュー

山川 由佳



- ①緊張したけど、自分たちが今までやってきたことをすべて発表出来たと思うので良かったです。
- ②大根やさつまいもを自分たちで栽培したときに、虫の被害にあったり、草むしりをしなくてはいけないのがとても大変でした。
- ③苦労して、さつまいもや大根を育てて収穫したときは、とても嬉しかったです。
- ④今まで行事の時に押し寿司などが出されても、あまり食べていなかったけど、研究をして作るのが大変だとわかりました。だから、しっかり食べようと思いました。
- ⑤まだ普及活動が不十分なので、近隣の学校まで広げて一緒に色々な郷土料理を作っていけたらと思っています。



人にやさしく自分にやさしく

(諫早・大村地区)

長崎県立諫早東高等学校

本校は、「人にやさしく自分にやさしく」をスローガンに行っている家庭クラブ活動について発表しました。地域との交流活動として、特別養護老人ホーム訪問を学校創立当初から続けています。月1回部活動単位で訪問して、季節のイベントや各部活動の特長を生かした交流をしています。最近では、生活介護施設で行事のお手伝い等のボランティア活動も行っています。また、地元の独り暮らしの高齢者に手作りのプレゼントを贈っています。校内の主な活動としては、県高校総体前にカレーライス昼食会を開いて、選手を激励しています。この時には学校農園で栽培した野菜を利用しています。心を込めて作ったカレーは大好評です。今後も地域や学校に貢献できる家庭クラブ活動を継続していきたいと思っています。

インタビュー

宮崎 怜央



- ①時間内に終わって良かったと思います。
- ②特にありません。
- ③ボランティア活動をする中で、障害者の方や高齢者の方々と触れ合えたことが嬉しかったです。
- ④きちんと相手の立場に立って考えることができるようになりました。自分たちのスローガン通りに「人にやさしく自分にやさしく」出来るようになりました。
- ⑤この研究を生かして、家庭クラブ活動が深まるといいなと思います。

インタビュー

坂口絵理華



- ①今までの練習で発表時間が短くて、焦っていましたが、なんとか目標の14分に近づくことができとても安心しています。
- ②テーマが決まらず困っていましたが、友人の祖母が病気になられて食物繊維の大切さを知りました。研究を始めましたが、時間が足りなくて研究を深めることがあまり出来なかったことです。
- ③老人クラブの皆さんに試食してもらった時に、「おいしい」「レシピがほしい」など私たちが頑張った成果が感じられた時が嬉しかったです。
- ④私たち高校生にとって、高齢者との関わりがとても薄くなっていますが、今回の研究で地域の人達と助け合ったり、高齢者に手を差し伸べたりすることが改めて大切だなと思いました。
- ⑤この研究の内容を高校生だけでなく、近くのお店や周りの人達に伝えて、もっと壱岐の人達が健康になるような活動をしていきたいです。

- ①発表を終えた今の気持ち
- ②最も大変だったこと、苦労したこと
- ③一番嬉しかったこと、充実感を得たこと
- ④研究を通して、自分の周りの気持ち、状況で変化したこと
- ⑤研究に関連して「今後にかける思い」を一言
- ⑥受賞した感想
- ⑦30年度の全国大会に向けての意気込み



元気な笑顔は「おなか」から ～おいしく食べよう！食物繊維～

(壱岐・対馬地区)

長崎県立壱岐高等学校

私たちは、食物繊維の摂取が体調を良くし、生活の質の向上に役立つことから、日常生活でも手軽に食物繊維を含む食品を摂り、体調の良い人を増やしたいと考えます。食品は壱州豆腐の副産物であるおからに注目し、栄養価や食物繊維の働きについて調べました。また、市内の豆腐店や壱岐高生にアンケートを実施し、おからの現状について知ることができました。大豆の栄養素や食物繊維が残っているにもかかわらず、廃棄や肥料の材料に使われるだけでは「もったいない」ので、手軽に食べられるおからもち(チーズ・ココア)を試作し、校内や地域の高齢者対象に試食会を開きました。若者にも高齢者にも好評で、おからのイメージを変えることができたと思います。今後は、食物繊維を摂りやすい食品の調理法をさらに研究し、おいしい食べ方を紹介したいです。

インタビュー

長崎大学教育学部教授 赤崎 眞弓 様



プレ大会全体印象や感想

今日のプレ大会は、生徒さん一丸となって取り組んでおられる様子がよくわかりました。研究発表も地域独特の課題、あるいは学校の課題をふまえた形で研究されていたと思います。



今後、高校生の家庭クラブ活動に期待すること

これから先みなさんが暮らしていく社会は、色々な変化があると思います。その中で、たくましく生きていってくれるような力をこの学校家庭クラブ活動の中で身につけていただければと思います。そして、これから先社会に出られたときも、役に立つような能力を身につけていただくと嬉しいと思います。



プレ大会を運営してきた県内高校生にメッセージや来年度の本大会に向けてのアドバイス・激励

プレ大会で、色々なことを経験されて、よくわかったことやもう少し工夫したらいいなど思うことが出てきていると思います。そういうところを中心に改善を加えて、全国の高校生が来年来られた時に長崎に来てよかったなど思っただけの大会を作してほしいと思います。1人1人の力がこの大会を支えているのだということを忘れないで活動していただければと思います。

スローガン 最優秀賞

諫早高等学校

本多 令理佳 さん



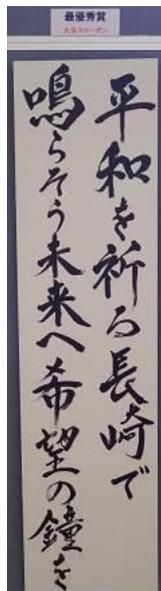
受賞した時の気持ち

私の作品が受賞するとは思ってなくてびっくりしましたが、嬉しかったです。



スローガンの思い

長崎は広島と同様に原子爆弾が落とされて、長崎の人たちは他の県の人よりも平和に対する思いが強いので、長崎を中心に世界が平和になるといいなと思って作りました。平和の希望の鐘というフレーズを入れたのは平和公園に「長崎の鐘」があり、そこから取りました。



ポスター原画 最優秀賞

諫早農業高等学校

田中 みずき さん



受賞した時の気持ち

ポスターのデザインを何回も考え直しました。ポスターの中の歴史を象徴する「ハウステンボス」「龍踊り」「大浦天主堂」「めがね橋」の風景など、それぞれの絵で絵の具の使い方を変えたりして、工夫できたと思うので、受賞できて嬉しいです。



ポスターの思い

長崎と聞いてイメージしたものをフィルムの中に描いて、これは長崎だとすぐわかるようにしました。1コマ1コマの絵の中のフィルムが途切れないように、これからも長崎の平和が続いていくよう願いを込めて描きました。



ポスターセッション



大会を支える生徒たち

